

【運営方針3】研修カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】新規就農から農業経営者の育成まで発達段階に応じたカリキュラムの強化

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 農業理解の促進から新規就農者の定着まで幅広いニーズに対応した研修の実施	(1)定員充足率:80%	① 経営の発達段階に応じた研修の実施【継続】 新規就農を志す者を対象に、就農（林業含む）に必要な実践的な栽培技術と知識を習得する研修を実施する。また、農林業体験から経営管理能力の向上を目的とする研修まで、就農の動機付け段階から経営発展段階までのそれぞれのニーズに対応した各種研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農希望者を対象として、優れた農業経営者や試験研究機関での実習と当校での講義等を組み合わせた1年間の長期研修「新規就農支援研修」を受講者28名で実施した。また、就農希望の他産業従事者を対象として、稲作・野菜・果樹の3コース毎に専門知識を学ぶ「働きながら学ぶ農業入門講座」(受講生74名)を各6回を実施した。 経営を把握して経営計画の策定や改善に結び付ける「経営力養成基礎講座」(受講生23名)と、パソコンを活用した財務会計を学ぶ「農業簿記ソフト活用講座」(受講生21名)を実施した。 新たに、林業従事及び林業経営を目指す森林所有者等を対象として、基本的な森林・林業に関する知識・技術を習得する「森林経営者養成講座」(受講生38名)を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)研修定員充足率・・・C(76%) 新規就農支援研修:56% 働きながら学ぶ農業入門講座:74% 農業経営力養成基礎講座:115% 農業簿記ソフト活用講座:105% 林業経営者養成講座:97% 	<ul style="list-style-type: none"> 「新規就農支援研修」の受講生全員が就農予定であることから、就農定着に向けて、円滑な農業開始が図られるよう関係機関・団体と連携してフォロー支援する。また、受講生は親元就農や継承就農ばかりでなく、新たに事業開始を目指して自ら経営部門を立ち上げて就農する事例が多くなったことから、農業技術関連の講義のほか、収益性試算方法や資金繰り対応など財務会計のカリキュラムを充実する。さらに、定員充足率が低い状況が続いており、本校独自の募集PRだけでは定数確保が困難なことから、本校での研修実施から終了後の受け皿支援対応まで、市町村・JA等との連携支援体制づくりを強化する。 「働きながら学ぶ農業入門講座」の稲作コース、野菜コースの希望者が減少しており、コース同一会場での実施から主産地での開催に改善し、より多くの受講者確保を図る。 「経営力養成基礎講座」は、より高度な経営実現を図るため、経営構想力を高められるよう、実践面での経営管理手法を学ぶ研修カリキュラムに内容を強化する。 「農業簿記ソフト活用講座」は、受講者が継続して簿記記帳できるよう、農業技術普及課と連携し、経営管理の資質向上を支援する体制を強化する。 「森林経営者養成講座」で、より多くの方が林業の技術や経営を学べるよう、対象を拡大してボランティアを加えるとともに、作業安全対策の内容を強化する。
		② 企業の経営体の育成支援【継続】 本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えたスーパートップランナー（生産力の高い企業的な農業経営を展開する経営体）の育成を目指し、規模拡大や新たな事業展開までの高度な経営学を学ぶ「やまがた農業経営塾」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> スーパートップランナーの育成を目的とする「やまがた農業経営塾」については、事業計画策定手法、先進事例調査による経営理念の理解、商談会への出展を通じての販売実践力の体得など全12回の研修(受講生17名)を実施した。また、専門家による事業計画へのコンサルティングを行い、経営発展のための事業計画策定を支援した。 「アグリウーマン塾」については、女性の感性を活かしたビジネスプランの策定を目指し、課題の棚卸法や解決に向けた対応法、ビジネスモデルの組立等を実践的に学ぶ全5回による講義、演習を実施した。受講者19名中14名が受講を修了した。 これまでの修了生を対象に、研修修了後のフォローアップ研修会を県内4ブロックで開催し、事業実施の進捗状況や実行しての課題への対応策などキメ細かな助言・指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)定員充足率・・・B やまがた農業経営塾:170% アグリウーマン塾:95% 農業ビジネス支援研修:110% (2)修了率・・・B やまがた農業経営塾:94% アグリウーマン塾:74% 農業ビジネス支援研修:100% 	<ul style="list-style-type: none"> 講座のカリキュラムに、より高度な農業経営の展開に欠かせないスマート農業に関する最新の取組み状況等を盛り込み、内容の充実を図る。 受講者の家庭事情による一部欠席や受講辞退がみられるので、修了率向上を図るため、欠席した場合でも課題解決や計画づくりが遅れないよう、農業技術普及課の担当がキメ細かに支援する体制を強化する。
		③ 6次産業化や新分野導入等への支援【新規】 新たに整備した乳製品加工施設を活用し、乳製品の加工・販売を目指す農業者等を対象に、チーズの基礎的知識と製造技術までを学ぶ「乳製品加工研修」を実施する。なお、チーズの製造販売を目指す希望者に製品加工施設を一般開放して乳製品の製造・販売を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 酪農家などチーズの製造加工を目指す者を対象として、チーズ製造の基礎知識や製造実践技術などを学ぶ「チーズ加工研修」を2回(受講生計22名)実施した。 チーズの製造販売を目指す者に対して、施設の一般開放(2回)を行い、製造・販売を支援した。 		<ul style="list-style-type: none"> 乳製品加工施設の一般開放と合わせて、チーズ加工の基礎知識から製造までを学ぶ研修の充実を図り、乳製品の製造・販売を事業化する人材を育成支援する。

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 就農段階に応じた研修は、多様な研修ルートや就農希望者のスキルに応じてキメ細かに行い、参加者の農林業に対する理解・知識などを高めることができた。特に、「新規就農支援研修」については、受講終了後の就農定着するまでモチベーションの向上を図りながら、意欲ある農業者として育成支援することが重要であることから、関係機関・団体と連携し、目指す農業経営の実現に向けた指導・支援を行っていく。 農業者の経営力向上・新分野事業展開を支援する研修については、「現場で使えること」、「学んだことが活用できること」を想定し、研修生がグループワークや演習・実習を通じて具体的な手法を体感し、実践的な技術力や経営力を体得できるよう心掛けて研修を進めたことから、研修参加者からは、「理解度が深まった。参加して良かった。」「現場で活用したい。」との声が多く寄せられて好評だった。今後も、受講者の要望等を把握し、研修カリキュラムのブラッシュアップを図っていきたい。 	<p>評価</p> <p>C</p>
---	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 就農支援講座等は市町村へのPR効果が高いと考えている。市町村等と連携して、進めて欲しい。 → 現在も市町村へのPRを行っているが、さらに強化し、講座への参加者を増やしていく。 林業関係の研修受講者を対象に木材の利用の仕方や経営的な研修、建築設計等の研修カリキュラムを実施して欲しい。 → 森林研究研修センターや各総合支庁森林整備課等と連携しながら、参加者のニーズに合った研修の開催を検討する。 	<p>評価</p> <p>C</p>
---	---------------------------